

伊 保 遺 跡

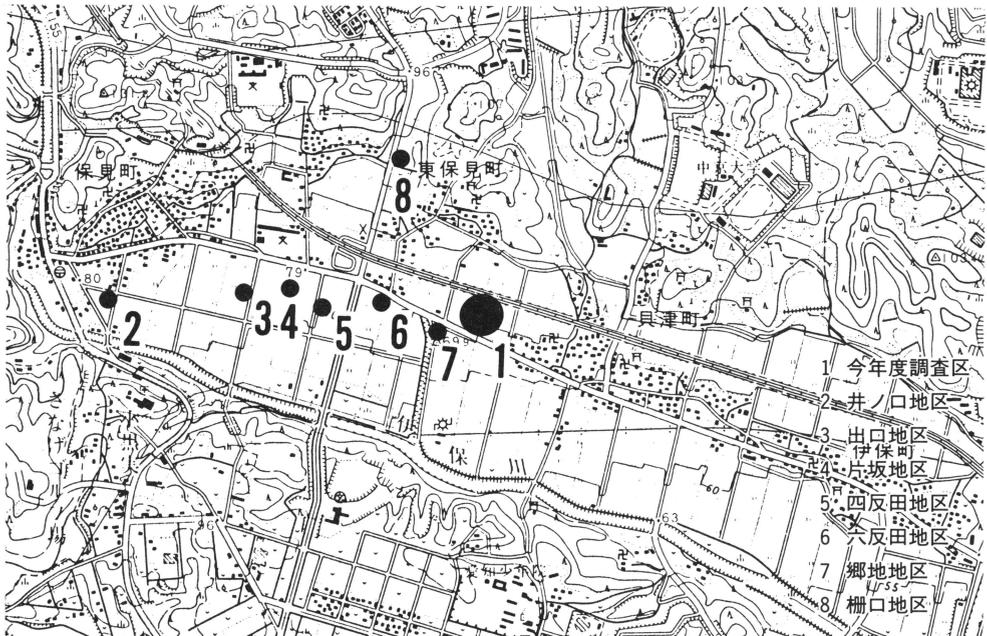
調査の概要

伊保遺跡は豊田市保見町から東保見町にかけて所在する。猿投山から南へ舌状に延びる洪積台地南端に立地し、その南には西から東へ伊保川が流れている。

昭和44年、旧猿投町地内において圃場整備事業が行われ、これが保見町に及んだことにより工事中遺物が認められた地点において猿投遺跡調査会が緊急調査を行った(2~8)。その結果、弥生時代後期~古墳時代、奈良・平安時代の遺物が出土しているが、時間的制約により断面観察と遺物採集に終わった地区が多い。この調査では、四反田地区・六反田地区において弥生時代後期~古墳時代の竪穴住居跡28棟を検出している。伊保遺跡は東西1.4kmに及ぶ細長い集落遺跡である。

今回の調査は、県道加納・東保見線建設に伴う事前調査であり、その面積は2192㎡である。調査区(1)の南に県道名古屋・豊田線、北に愛知環状鉄道が走る。猿投遺跡調査会の調査地区のうち最も東にある郷地地区(7)よりさらに東にあたる。標高は70~72mである。現状は水田耕作等により全面的に削平され、特に南端は1m以上も深く抉られており、残存状態は良くない。現在調査途中であり詳細を述べる段階ではないが、弥生時代後期~古墳時代初頭の自然流路を検出している。

(岡本直久)



伊保遺跡調査地点位置図 (1 : 25,000)